



5月4日(金)「ピースあいち」オープン!!

式典と記念事業が盛況に行われました。

■多くのお祝いと励ましが —盛況だった開館式

1年半の歳月をかけて準備したすべての展示品やパネルの設置が終わったのは、オープンのほんの2～3日前。前日の夕方まで細かい手直しをやって、ようやく5月4日を迎えた。



テープカット 右から2人目が野間館長

開館式は雨に見舞われた起工式と異なり、爽やかな五月晴れ。来賓として地元選出の衆議院議員をはじめ県会議員・市会議員等の公職者の方々、国際平和ミュージアム館長や東京大空襲・戦災資料センター、女たちの戦争と平和資料館、岡山空襲平和資料館からもお祝いに駆けつけていただいた。マスコミも在名の新聞・TV全社が取材、カメラの位置確保にも苦労している状況だった。

森島理事長の主催者挨拶にはじまり、来賓の方々から祝辞をいただき、先輩資料館からのお祝いと励ましのメッセージを披露した後、この館の建設のために貴重な土地と資金を提供していただいた加藤たづさん(代理)へ感謝状を贈呈。

終わりは、「ピースあいち」が発信しようとしているメッセージとして、1階のコーナーに掲げである詩「希望を編みあわせる」を運営委員のメンバーで朗読。野間館長のお礼の言葉の後、主催者代表(野間館長)、来賓代表(山辺昌彦氏)、名東区区政協議長(森本了氏)、県弁護士会前会長(山田靖典氏)、公職者代表(富田勝三氏)、若者代表(榊山潤氏)でテープカットを行った。

■音楽の夕べ「今こそ、平和のメッセージを」 そして記念イベント

5月4日夕方より名東文化小劇場で講演と音楽の夕べ「今こそ、平和のメッセージを」を開催。会場は当日入場券を求めて並んだ人たちを含め満席。若さ溢れる千種高校吹奏楽部の演奏に続いて、「いのちと平和の大切さを」切々と訴える早乙女勝元さんの講演。司会も兼ねた天野鎮雄さんの心にしみる朗読。最後は松本三紀夫とコール・ロマンチュの独唱・合唱。

「ピースあいち」でもいくつかのオープニングイベントを行った。5月5日は「ぞうれっしゃがやってきた」小出隆司先生によるお話と紙芝居、そして俳優・田中幸子さんによる朗読・読み聞かせの会。5月6日は松本銀子さんによる子ども向け企画・ゲームと紙芝居、渡部千枝と門下生のコンサート。5月5日から31日までは、「ぞうれっしゃがやってきた」箕田源二郎原画展、広河隆一・ミニ写真展。



来館者で混雑するピースあいち

オープニング3日間の入場者は予想を大きく上回り、約1600人にのぼった。天気の良い5日は、時間前から歩道上に40人以上の列ができ、開館を30分早めたほどだった。

食い入るように壁面パネルを見る人たち、戦時下の展示物を見て当時の苦労を語りかけるお年寄り、子どもと一緒に鶴を折る若いお母さん。閉館時間まで入場者の絶えることはなかった。

あの戦争から62年 平和のメッセージを発信する

先の戦争が終わってから62年目の夏を迎える。広島・長崎では、それぞれ原爆による犠牲者を悼む鎮魂の集いが開かれ、恒久の平和を誓う。敗戦記念日の8月15日には全国戦没者の慰霊祭が開かれる。再び戦争を起こすまいと願って名古屋に建設した「ピースあいち」は、オープンして3か月。この間の経過を振り返ってみた。

予想を超える来館者

「ピースあいち」の開館は本年の5月4日。当初の3日間は新聞・テレビで報道され、幾つかの記念イベントもあって、来館者は1,600人にも上った。その後は閑古鳥が鳴くのではないかと心配したが、7月31日現在で5,591人を数える。7月に入っても来館者は、ウィークデイで50人ほど、土曜日には100人を超える。

開館とともに管理・運営を担う次のような組織を発足させた。館長・野間美喜子、副館長・田中十四子、事務局長・宮原大輔、同次長・松本銀子。そして運営委員は赤澤ゆかりはじめ17名。これに公募に応じたボランティア62名が加わる。

いま、日常的には松本次長とともにボランティア5名、NPOメンバー1名～2名が毎日交代で当番として詰めている。入口受付での観覧券の発売、展示室での案内、印刷物のプリントなど事務の手伝いを務めている。インターネットに当館のホームページを開設（ホームページアドレスは本号の題字下に掲載）、常設展示の概要、アクセス地図を紹介している。

戦争体験を語る人、目頭を押さえる人…

団体、グループでの来館も少なくない。岐阜市平和資料室友の会（40人）をはじめ数多くの来館者を迎えている。（本号6頁、「団体・グループの見学」の項参照）。団体で来ると時間に制限があり、ゆっくり見ていられないので、再訪すると仰有る方もいた。

展示室ではご自分の戦争体験を語り合っている人も見かける。幾つかの死を扱った大型写真のコーナーがあり、原爆で犠牲となった方の遺体を焼

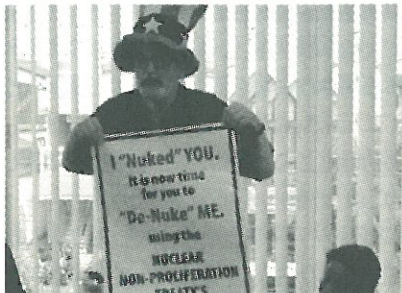
くところに駆けつけた少年の写真がある。その少年は幼い妹を背負っている。その女の子はすでに亡くなっている。この写真の前で目頭を押さえている人がいた。展示室には折り紙が用意されている。平和を願って折り鶴を折る人も少なくない。数多くの折り鶴が残されている。

さまざまな企画展

ここでは、平和を守る運動を広げるための集いが幾つか持たれている。市内の私立高校の生徒によるグループ展「15歳の語り継ぐ戦争展」の開催、ボランティアの1人である仲直敏さんから戦争体験を聴く集い、アメリカで「第九条の会」を立ち上げ、日本国憲法第九条の崇高な理念を語り巡っているチャールズ・オーバービーさんを迎えるの懇談会、そして戦時の生活を追体験しようとする「すいとんを食べる会」などであり、今後もこうした催しが企画されている。

来館者には、「ピースあいち」への要望、平和のメッセージを記していただくアンケート用紙を手渡している。そのメッセージの一部は、館内のボードに掲示している。「海軍の資料が乏しい」「名古屋駅構内の案内所にパンフレットを置くとよい」「解説の文字が小さいので、拡大鏡を常備して欲しい」といったさまざまな感想、要望が寄せられている。そのすべてに応えることは困難だが、拡大鏡はすぐに用意した。5歳から91歳まで各世代の方々の思いが寄せられている。

「ピースあいち」を、志を同じくする方々の交流の場とし、より多くの方々に支えられて、平和のメッセージを発信する場として育てて欲しいと願っている。



チャールズ・オーバービーさんを迎えるの懇談会(6/7)



仲さんのお話を聞く会(6/30)



「すいとんを食べる会」会員にスタッフが展示の説明をする(7/14)

ボランティアさんの声

お手伝いの意義

河原 忠弘

来館者に接しながら思いを巡らせます。年配者は戦没者や被災・疎開体験などを思い出してか寡黙になる。若者が「命の壁」を凝視して立ちすくむ。国家がおしすすめた野蛮な戦争に怒り、ヤルセナク思うのは私も同じです。

そして今、「戦争への道」を開こうとする勢力が強まり、孫たちに平和をプレゼントできるかが危ぶまれています。だから、「平和のうちに生存する権利」をどんなに犠牲を払っても守り抜く、とのメッセージを発することがますます大切になってきています。

この時期にその拠点「ピースあいち」のお手伝いすることに大きな意義を感じています。



ボランティアになる

並木 和子

今年もまた、原爆投下の記念日がやってきた。私は17歳のとき東京大空襲で我が家を失ったが、その2年前まで長崎に住んでいた。長崎の友人やその家族の原爆体験を思うとき、今でも胸が痛い。佐世保に動員されていた友達は、戻った我が家で母親と兄弟たちが即死状態であった。17歳の少女がただ呆然と焼け跡に立ちすくんでいた様を思うと、涙がにじむ。医学部に入った友人は爆心地に近い校舎で授業があり、命を落とした。彼の母親は、その後数十年、いつ息子が帰宅してもいいように玄関を開けたままにしていたと聞いた。戦争の記憶がどんどん薄れ風化していくのを無力感で見送っていたとき、「ピースあいち」の建設とボランティアの募集を知り、迷うことなく応募した。



来館者の声から

展示にも書いてあったけど、なぜ人はダメだとわかっていても戦争をしてしまうのか。戦争なんて絶対にあってはいけないことだと思う。今までいろんな戦争について聞いたり見たりしたけれど、どれも悲惨で、本当に戦争は嫌だなと思います。

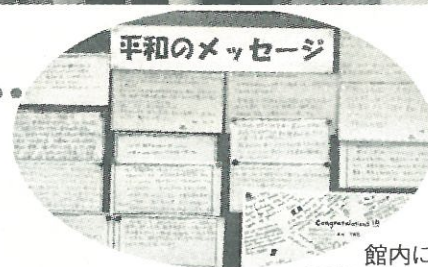
今日ここで鶴を折らせていただきましたが、そこに「世界平和・戦争反対」と書きました。僕はそれを本当に望んでいるし、これからも平和について考えていきたいです。

(17歳 高校生)

今でこそ平和な日本であるけれど、ほんの少し前、私たちのおばあちゃんやおじいちゃんの時代には、ほんとにたいへんな思いで日々生活していたんだと思うと胸が痛みます。

戦争で大切な人を失う怖さ、痛み、つらさなど、さまざまな思いを感じました。戦争で亡くなった人たちは、どんな思いで死んでいったんだろう。もう二度と戦争が起こらないために、平和を強く願って、事実を受けとめながら生きていきたい。

(24歳)



館内に
展示されている
アンケート

昭和の激動を生きてきた人間です。

豊橋の大空襲には、学徒動員で夜勤で軍需工場で働いていました。民家の燃える中を命からがら逃げたときの光景が目に残っています。戦争の恐ろしさを体験しました。戦争は不幸そのもので、何一つ益にはなりません。

戦争はしてはいけません。この世から戦争が無くなることを願っています。

(戦争体験者)

持続的活動を支える 体制づくりの努力を

立命館大学
国際平和ミュージアム・館長
安 齋 育 郎

「ピースあいち」の立ち上げ、嬉しいですね。拝見して（勝手ながら）立命館の姉妹館と呼びたいような感懐にとらわれました。コンパクトに戦争と平和の歴史を跡づけるとともに現代的な問題提起も試みており、印象的です。出だしは上々ですが、こうした事業には「初期効果」があります。実務的な運営体制の点でも、アイデア豊かに魅力的な事業を打ち出していく展開力の点でも、今後



の持続可能性をどう保障するかが大切でしょう。

一館だけで抱え込むのは非効率的ですから、仲間の平和博物館との連携を図りましょう。

「平和のための博物館市民ネットワーク」には積極的に参加されるでしょうが、立命館も加盟している「日本平和博物館会議」ともコンタクト・チャンネルをつなぐことが有用でしょうし、来年10月に京都・広島で開催される予定の「第6回国際平和博物館会議」にも参加されることを期待します。私たちも、出来るだけ簡便な「巡回用展示キット」を開発するなどの努力を続けますが、立命館の平和ミュージアムで毎年6～7回展開している「ミニ企画展示」の中には、「ピースあいち」での展示に適した企画もあるかもしれません。互いに知恵と便宜を提供しあいながら、ますます大事になりつつある平和博物館としての社会的責務を果たすために共同しましょう。

証言

中日新聞社社友
阿 部 孝 子

六十二回目の終戦記念日が巡ってきた。一九九五年八月、私は社会部記者として、名古屋市内で開かれた戦後五十年記念展



「語り継ごう“戦争と平和”展」に特設された「歴史の証言者受付デスク」に座っていた。戦場にしろ、日本国内にしろ、あの過酷な時代をくぐり抜けてきた人々に自らの体験や思いを語ってもらおうという企画だった。

終戦後、旧ソ連軍の収容所を十人で脱出、七人が生き残り、佐世保に復員したときはミ

イラのように涙も出なかった話、広島で原爆に遭遇、全身に被爆した少年の「助けて」の声に、何もしてあげられなかった無念さ、敗戦の翌日、爆薬を船に積み、水上攻撃隊として出撃した兄への思い―。何十人話を聞いただろうか。誰もが、胸にたまったものを絞り出すように切々と語った。

しかし、その一方で、従軍慰安婦や南京大虐殺を揶揄（やゆ）するような心ない発言も。取材を終えた私の心に、むなしさが残った。「あの戦争はいったい何だったのか」。

これらの事実は決して過去のものではない。いまなお心身ともに戦争の傷跡を残している人たちがいる。国外に目を向ければ、韓国人元挺身隊訴訟で賠償請求棄却の判決も耳新しい。憲法論議が盛んないま、私たちは何をすべきであろうか。

願いは、資料館の「普通の日々」

館長 野間 美喜子



思えば、怒涛のように明け暮れて行った1年半の開館準備の日々、何事もなく無事にオープンできますようにと祈るような思いで過ごした開館直前の日々、遠くからも近くからも駆けつけて開館を祝ってくれた多くの人々に囲まれた、あの五月晴れの開館日。

そして、それに続いたしばらくの間の、想像を超えた賑わいの日々……。実は、開館準備が大変だった頃、私は開館後の大変さをあまり切実に想像できなかった。準備のための「今」を乗り切ること必死だったせい、開館したら、またいろいろ考えながらやっついこうという気持ちで、実はあまり心配していなかったのだ。

しかし、それは違っていた。来館者が予想をはるかに超えたという嬉しい誤算だけではない。一つの施設を円滑に動かしていくことは生易しいことではない。まして、初動の時期にはもっと十全の用意を整えておくべきだった。専従の松本銀子

さんの獅子奮迅の働きなくして、あの開館後の1か月を無事に乗り切ることはできなかったらと思うと、館長の見通しの甘さを恥入る思いである。

しかし、はや数か月がたち、今、「ピースあいち」は、ボランティアさんの強力な支えを得て、資料館の「普通の日々」が始まりつつある。まだ、思いがけないことが時々起きるけれど、それでもみんなが少しずつ慣れて、少しずつ調子がつかめてきた。これは何でもないようで、実は大変なことなのである。

「ピースあいち」が財政的にも安定し、充実した展示や催しが展開でき、来館者が日々平均50人くらいあって、資料館の「普通の日々」が続くこと、これが館長の願いである。この資料館が健全に存続できる間は、日本にファシズムはないだろうと思うからである。

「ピース・セミナー2007」への参加を・・・

「ピースあいち」は、戦争と平和の問題について、日常的に調査研究活動をしていきます。また来春、「ピースあいち」の1周年記念として、「沖縄」をテーマにした企画展を行うことが決まりました。

そこで、1周年記念の企画展に向けて、9月から「沖縄」をテーマにしたセミナーを開講します。ぜひご参加ください。

テーマ:

「沖縄から戦争と平和を考える」

「戦後レジームからの脱却」「美しい国日本」という掛け声のもと、戦後民主主義の否定と平和憲法の改定が押しすすめられようとしている昨今の状況にあって、このセミナーは、わが国が戦中、戦後にわたり多大な犠牲を強いてきた沖縄に目を向け、沖縄を通して戦争の歴史と日本の戦後史を学び直し、沖縄の現状を知ることによって、今後の日本の平和のありようを模索しようとするものです。

●期間 2007年9月～12月 全8回

●日程・場所

9月8日、29日 (ピースあいち3F)
10月6日、27日 (NPOプラザ会議室)
11月10日、24日 (ピースあいち3F)
12月8日、22日 (ピースあいち3F)

- 開講時間 午後2時～4時
- 募集人数 20名
- 参加費 8000円
- 参加申し込み 8月25日まで
参加費を添えて事務局へ申し込んでください。
定員になり次第締め切ります。
- カリキュラム
(講師の都合などで変更することがあります)
- 第1回(9月8日)
今、なぜ沖縄か＝沖縄から現代の課題をさぐる
- 第2回(9月29日)
今、沖縄で起きていること＝沖縄を撮り続けて
講師 浅見裕子(写真家)
- 第3回(10月6日) 日本の戦後史と沖縄
講師 阪井芳貴(名古屋市立大学)
- 第4回(10月27日) メンバーによるレポートと討論
- 第5回(11月10日)
沖縄戦の歴史から学ぶ＝沖縄戦とは何だったか。
講師 石原昌家(沖縄国際大学)(交渉中)
- 第6回(11月24日) 映像から学ぶ沖縄戦
- 第7回(12月8日) 企画展に向けて
- 第8回(12月22日) 9.11以後の日米世界戦略と沖縄
講師 森 英樹(名古屋大学名誉教授)

夏の鐘 六日 九日 十五日

齋藤 孝

還らざる兵士の墓や花吹雪

伊藤 益臣

汗をかく喜びとともに梅雨の間に

野尻 賢哉

広島の上に響くか蟬しぐれ

猪瀬 隼也

梅雨空に「戦争いや」と叫びたい

大倉祐梨絵

あらそいはおわりにしようあおいほし

日下 義弘

自決壕のこと訥々と木下闇

井沢 陽子

敗戦忌入道雲の道遥か

山下 可子

平和への希を新たに館を去る

福井 源生

まんしゅうの思いなつかし今日の日に

奥山 利平

空襲下逃げ惑った日夢の如

杉浦 忠夫

平和地蔵まなざしきびし原爆息

野間美喜子

館内の掲示で募集したところ六十二句が寄せられ、編集スタッフで選考しました。大倉祐梨絵さんは小学五年生です。

相次ぐ団体・グループの見学

当館がオープンして間もなく3か月。この間、予想を超える来館者があった。どこで知られたのか、県外の遠くからの方々も少なくない。今後の課題はリピーターを増やす策である。考えられるのは、①企画展を催すこと、②マスメディアに取り上げられよう話題作り、③小学校・中学校の団体見学である。

幸いにして、このところ団体・グループの見学が相次いでいる。列挙すれば、岐阜市平和資料室友の会(40名)、愛知女性九条の会(41名)、滋賀県湖南市遺族会(68名)、一宮市西成小学校(58名)、相山中学2年生(40名)などである。デイケアセンター(12名)、名古屋芸大学生(13名)、木曾川町折鶴の会(16名)といった少人数のグループもある。

事前に連絡頂ければ、見学前の解説者を用意するし、休館日の見学でも20人以上ならば、受け入れる用意があるので、ご一報ください。



一宮市西成小学校の子どもたち



金城高校の学生の展示「15歳の語り継ぐ戦争」



「愛知サマーフェス」にて

新聞から

戦争資料館で悲惨さ学ぼう

名古屋市名東区に「戦争と平和の資料館ピースあいち」が五月四日に開館した。この資料館は、戦争が市民に何をもたらすか考えてほしいという願いが込められている。そうした思いから、戦後日本の出発点になった今の日本国憲法第九条の「戦争放棄」「戦力不保持」を分かりやすく解説した一文が、ここに掲げられている。

館長を務める野間美喜子さんは終戦時、六歳だったが、「優しいひとなのに鬼に見えた。それが戦争の恐ろしさです」と語っている。やはり戦争は人間の人格まで変えてしまうのだろう。人間は誰しも醜い心を持っている。自身自身が生き残るためなら、残酷なことさえしてしまつのだ。

いま日本は幸い平和だが、戦争体験のある人が少なくなり、直接、話を聞くのは難しくなった。しかし、これからは戦争の悲惨さについて語り継いでいかなければ、またいつか来た道を歩くことになるかもしれない。そのためにも、この資料館を訪れ、戦争について考えるのは良い機会になると思う。

(二〇〇七年六月一日付中日新聞名古屋市中村区・奥山三紗・高校生十七歳)

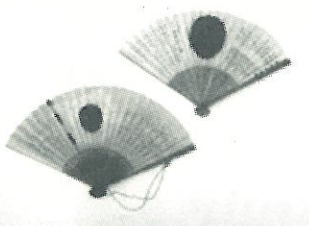
戦争と平和を詠む

風暑く風鈴黙す終戦忌 吉田 稔
 語り部の歟深まりぬ原爆忌 池谷 涼子
 原爆死子どもの詩に生きねばと 金子 寿子
 グランドは芋畠と化し敗戦日 田内リツ子
 みずおちの貫通痕や古団扇 園原 節子
 父母も逝きて兵士の無縁墓 牧田 こま
 夏草の生うる隙なき兵の墓 松ヶ崎敬子
 戦終え子らは嬉しき灯ともす夜 水口 祀子
 三月十日炎を背負う忿怒神 宮崎 玲子
 兵の墓ただ髪と爪蟬時雨 宮崎 享一
 戦とは愚者の選択夏帽子 山下智恵子
 元兵の心の傷や投書欄 桜井 京子

6月に寄贈の受け付けを再開しました。

「フィリピンへの遺骨収集の時に持ち帰った」と言ってお贈りいただいた鉄兜には、銃弾の痕が生々しく残っています。「町家には時計があった方がいいのでは」と、名古屋の中心街で空襲に遭いながらも無事であった柱時計を寄贈してくださいました。

現在の展示スペースでは限りがあります。近衛兵であった方の正装・



愛国行進曲、戦陣訓の歌詞入り扇

肩章・帽子等一式、軍艦・鳥海に乗っていた方の帽子・カラー・カンテラ・鳥海の行動記録等、まとまった形での寄贈品が展示できないまま



空襲に遭っても無事だった柱時計



2階展示室「戦時下の暮らし」コーナーの町屋

なっています。今後、企画展などで展示することができたらと計画しています。

5月中旬から、4～5名のボランティアの皆さんのご協力を得て、資料の受け付け、整理、パソコン入力を進めています。火、木曜日は物、水曜日は図書の寄贈の受け付けをしています。今後ともよろしくお願いいたします。

ピースあいちの運営を支えてください。

ピースあいちの運営資金は、正会員・賛助会員の会費収入と寄付金によってまかなわれます。現在正会員は207名、賛助会員は265名。1年間の経費は約600万円で、現在の会員数では、その3分の1にも至りません。

6月16日の総会では、これから2年間、『正会員500名、賛助会員1000名』を目標として会員拡大していくことが確認されました。会費収入によって運営基盤が整えば、閲覧料などの収入をさまざまな活動にあてることができます。

ぜひ会員になって、一緒に「ピースあいち」を支えてください。

○正会員は無料バスの特典

*お申込みは郵便振り込み用紙で、またはピースあいちにて直接お申し込み下さい。

*法人向けには、「ピースあいち支援団体」になっていただき、毎年一定額（101万円）のご寄付をお願いしています。

NPO 総会報告

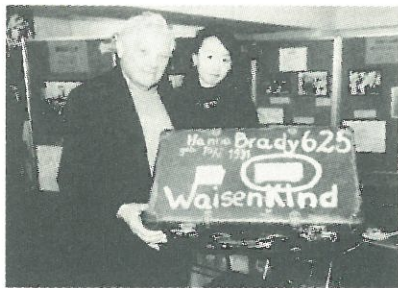
6月16日ピースあいち3階会議室において、NPO平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会第5回定期総会を開催。

「ピースあいち」の運営に関する基本事項等の報告及びNPOの事業計画・予算等に関する審議を行い、NPOの会員拡大と財政基盤の確立について協議した。

**今年の夏・秋は
家族で、友人と、グループで、
「ピースあいち」へお出かけください。**

**●ハンナのかばん展
8月14日(火)～9月1日(土)**

第2次世界大戦中、50万人の子どもたちが「ユダヤ人に生まれた」という、それだけの理由で殺されました。13歳の



ハンナのかばん

ハンナもその1人でした。けれども、ハンナの物語はこれで終わりではありませんでした。ハンナの持ち物だった「かばん」が、私たちにホロコーストでの出来事を伝えるために、はるばる遠い日本までやってきたのです。

ハンナのかばんをめぐって生まれた不思議な出会いのお話をパネル展示します。

8月18日(土)には、「ハンナのかばん」原作者の石岡史子さんの講演会を開催。

**●児玉房子ガラス絵展
10月2日(火)～11月3日(土)**

軍隊を持たない国・コスタリカに魅せられ、旅した風景を「ガラス絵」にしました。作者の講演会と合わせてご紹介します。講演会では朗読もします。読み手も募集しています。詳細はお問い合わせください。

【ピースあいちの利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日(祝日の場合も開館)
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日・年末年始
- 閲覧料 大人300円 小中高生100円
- 閲覧料を頂くのは、2階の展示室です。1階にも「現代の戦争と平和」というテーマでの展示と戦争に関する図書ライブラリーがありますが、無料でご自由に閲覧できます。
- 団体やグループ、学校などの見学会で開館時外に来館ご希望の方は、ご相談下さい。
- 3階の企画室の使用料については、事務局にお問い合わせ下さい。
- 駐車場がありませんので、必ず公共交通機関でおいで下さい。

「ピースあいち」への交通のご案内

「ピースあいち」には駐車場がありません。近くの有料駐車場を利用していただくか、公共交通機関でのご来館をお願いします。

公共交通機関でのご来館の方法は2つあります。

(1) 地下鉄東山線一社駅で下車、1番出口に出ます。タクシー乗り場に出ると坂道になっていて、この坂道を登ります。道なりに3つ目の信号「よもぎ台」まで来ると、左前方にサークルKが見えます。信号を渡って右に曲がると、すぐ左にある白い3階建ての建物が「ピースあいち」。歩いて12～15分ほどです。

一社駅のタクシー乗り場からタクシーに乗ると、ワンメーターほどで着きます。運転手さんに「よもぎ台のハロー・ドゥ・インターナショナル西隣りのピースあいち」と伝えてください。

(2) 地下鉄とバスを乗り継ぐ方法です。地下鉄東山線上社駅で下車、バス乗り場に出ます。3番か4番乗り場で11系統循環バス(上社～上社)に乗り、「じあみ」で下車。4番乗り場の右回りが所要時間は短いですが、平日は1時間に2本なので、早く来たバスに乗るのをお勧めします。土曜日は1時間に3本です。ハロー・ドゥ・インターナショナルを通り越した白い3階建ての建物が「ピースあいち」。バス停から4分ほどです。



●編集後記●

開館当初は電話が鳴りっぱなしだった。その多くは当館へのアクセス。道順の問い合わせである。来館された方も、「ここに辿り着くまでが大変でした」と話されていた。いまでは、地下鉄・一社駅前のタクシーの運転士氏に、「ピースあいちへ」と告げれば了解である。開館して3か月。予想を超える来館者にスタッフはひとまず安堵。当館の日々は、毎日交代で当番を務める5人のボランティアさん、総勢70人の方々に支えられている。二度と戦争を起こすまいと願う人々である。(S)